

概要報告

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 社会部会

テーマ 『社会的事象に関する関心・意欲を高め、知識・技能を効果的に活用させる授業づくり』

提案概要

- ・どのような授業がわかりやすく、生徒に必要なことが伝わるのか
- ・自分の「目指す授業像」とはどのようなものなのか
- ・授業を通して、何を伝え、どんな力をつけさせたいのか
- ・資料の提示や教材の工夫、授業の進め方について

質疑概要

Q「前時までの授業と今回の授業が、戦局の悪化という点でどのようにつながっているのか？」

A「今回作成した資料を次回の授業で生かすことができた」

Q「一人Q&Aのなかで、授業内容を理解していないと思われる生徒への手立ては？」

A「コメントを付けて返却する。」

Q「戦死者数が大きいと感覚がマヒして命の尊さを伝えるのが難しくなるが、どのように工夫したか？」

A「生徒の中には数字を通して一人の命について考えるものもいた」

研究協議概要

・自分たちで資料を作成することにより、意識や関心は高まったと思うが、その先に発展させるためにどのような展開や活動が考えられるか → グループ討議

- 一人Q&Aや疑問点を挙げた後にもう一時間の振り返りの時間を取るとよいのではないか
(三年生の公民の授業にもつながる)
- ゴールを明確にした作業を行うとよい
(クラスごとに気付きがバラバラにならないように気を付ける)
- 連合国側の視点もあるとよい
(日本を主観とした考えだけでは難しい)
- 戦局が決まっている中で日本が粘った理由を考えさせたい
(連合国側はなぜ補給船をねらったのか)
- どこの国も同じ命の重みがあるんだということに気付かせたい
- 薄れていく戦争の悲惨さを後世にどのように伝えてくか
(戦争って実は身近なものであることに気付かせたい)
- 生徒の感想を見ても無限にあるので、ある程度教員が方向性を決めて授業を進める必要がある
- 全体で戦争について調べる、というよりは提案者のように個人でテーマを持って取り組むとよい
- 感情的になりがちな単元を数値で客観的に分析していたのでよかった
- 地理分野、公民分野にもつながる内容だったのでよいと思う

まとめ概要

単に資料を作成するだけでなく、資料から読み取れること、そこから感じること、考えることは思考にもつながるし、興味関心にもつながる。ひいては社会科の授業だけでなく道徳でも扱える内容であるし、グラフを作成するのであれば技術の授業と連携することもできる。今回は自分たちで資料を作成し、そこから何かを感じ、考えさせる授業になったが、教師側がもっと明確なテーマをもって生徒に考えさせることができるとなおよかった。今回の授業は戦後の現代史にもつながるし、公民的分野の基本的な人権でも改めて考えることのできるテーマであると思う。一つの授業を通して学びが広がるような授業を意識して行うことが大切である。